

決して先代（父である5代目）の自慢話をするわけではありませんが、先代には蘭草を見る非凡な目がありました。仕事を始めて間もないころ、お客様から引き上げてきた畳を前に「これは岡山の蘭草。岡山の早島という所で織られるんや。蘭草の潰れ方が熊本と少し違うやろ」「少し高知の蘭草が混じっているが、このころの備後表は良かった。そうそうあるもんじゃない高級な畳だ」。勿論私には、どう見てもみな同じ色焼けた畳。しかも新品ではなく何年も使われた畳を見て言うの

素描

継承の条件

岐阜県畳組合理事長 石河恒夫

です。小松・土佐・備前産地の品評会に行ったり・球磨（人吉）。畳表を生産農家に泊めて頂いた。鬼に金棒とは。現在、古くからのお客様の引き継ぎを何とかこのことです。

かなり強烈なショックを受けた私は、それ以来の経験があったから引き上げてきた畳表をじっくり見るようになりました（これは今でも続いています）。先代と意見が合わず何度喧嘩をしたか知れませんが、しかし私の中には「この人は凄い」という冷静な見方があります。何かして追いつかなくてと…。

「数多くの畳表を見るしか方法はない」。そう考えた私は、広島や熊本

産地の品評会に行ったり、生産農家に泊めて頂いた。現在、古くからのお客様の引き継ぎを何とかさせて頂けるのも、これらの経験があったから、そう思っています。

先代はことし亡くなりました、畳表と一緒に見ることができませんでした。先代なら何かと言った。素材の中には「この人は凄い」という冷静な見方があります。何かして追いつかなくてと…。

素材を知り、見る目を保持。これは先代から私に課せられた、6代目を継承する大事な条件だったのかもしれない。